

## 後継者育成支援事業

## 組織活性化のための方策

高崎卸商社街協同組合（松本修平理事長、組合員116人）では、7月17日、高崎市・ピエント高崎問屋街センターにおいて、当組合青年部組織である、高崎青年経営者研究会を対象に、後継者育成支援事業を実施した。

当日は、ネクストスタンダード代表の齋藤正明氏を講師に迎え、「日本一のマグロ船に学ぶ・組織をよりイキイキさせるコミュニケーション」をテーマに研修会を行った。

齋藤氏は、民間企業の研究所でマグロの鮮度保持剤の開発に携わっていたある日、マグロ船への上船を命令された。



齋藤正明氏

「上船した船は、日本のマグロ船約500隻のうち、毎年トップクラスの売上を誇る船だった。漁師同士が知恵と知恵を合わせてチームワークを良くして、効率よくマグロを捕っていた」と、まず

は、その経験を語った。

続いて、「ただでさえ狭い船内ではストレスが充満し、それで人間関係がこじれて作業効率が悪くなったり、労働災害が起る可能性は高い。こうした環境の中で、船長は船員が危険な行動を取っていないか、キチンと見守りつつも、監視にならないようにしていることに気付いた」と、船長が果たす役割の重要性について触れた。

そして、漁に出たある日、船長に若手の漁師を育てるポイントについて質問したところ、船長は、「細かいことを、3つ4つ教える。こうすると上手くできるとか、そこに足を置くと危ない、など簡単なことである。そして翌日、教えたことが1つでもできるようになっていれば『できるようになったな』などと声を掛ける。言葉は贈り物という認識をもって接することが大事である。できるようになった1つを気付いて褒めれば、若手の漁師は『船長は、できない残りの2つも解っている』と察し、引き続き努力していくものである」と貴重な回答を得ることができたと解説した。

「船長は、尊敬され魅力のある



人間でないと務まらない。船員に頼んだ仕事があれば、その結果に対して『さすがだな。すごいな』など、見て褒める場面を作ることが大事である。リーダーとは、特化してできるようになるのではなくて、むしろ、できなくても、人の良いところを見て、その人の居場所、やりがいを作ってあげる役割を担うのである」と強調した。

最後に「コミュニケーションから信頼関係をつくり、イキイキと働くことができる組織こそが、成果を上げる」と締めくくった。

## 組織振興支援事業

# 後継者に贈る 小規模企業に有効な経営手法

高崎機械工業協同組合（荻野高理事長、組合員48人）では、7月18日、高崎市・高崎機械工業協同組合会館において、講習会を開催した。

「事業後継者として小規模企業でも使える経営手法」をテーマに、（株）ディセンタ代表取締役の折原浩氏を講師に迎えた。

折原氏は、経済産業局の「中小企業のあるべき姿に関する研究会」「地域社会における企業のあり方研究会」を基に、エクセレントカンパニーを位置付けた。

エクセレントカンパニーは、この不況下でも力強く生き残り、更に業績を上げ付加価値を高めており、それぞれには共通する7つの事項があると述べた。

その共通点は、①理念重視、②イノベーション重視、③付加価値・差別化重視、④お客様重視、⑤人づくり重視、⑥計画経営重視、⑦地域社会重視であり、かつてない不況の中で成長カーブを描いていくことができる理由を解説した。

### ①理念重視

経営理念と使命を朝礼や会議などで効果的に全社員に浸透させている。



折原 浩氏

### ②イノベーション重視

### ③付加価値・差別化重視

### ④お客様重視

昨今の急激な経済情勢の変化に対し、自らが率先して変化を生み出し、他社を巻き込むことで市場を変化させようと行動している。そのために、利益に関係なく研究開発を推進し、顧客満足を得ることで市場から信頼されることを重要と考えている。

### ⑤人づくり重視

人材の確保や育成、職場づくりを重視し、特に景気に左右されずに新卒者を定期的に採用、目先の利益にとらわれない長期的人材育成の土壌を作ることが重要と考えている。また、後継者育成に関してはかなり早い時期に事業承継を実施している。

### ⑥計画経営重視

経営を永く継続させるために中長期的な事業計画書を作成し、何

度も書き直すことで、環境変化に素早く対応する行動力や発想力、企画力を高めている。

### ⑦地域社会重視

CSRを重視し、企業は社会の中で生きる存在として様々な配慮をし、社会へ還元すべきと考えている。最近では、企業が利益を出す事で社会に価値を生み出し、結果的に社会に貢献するというCSV (Creating Shared Value) の考え方が提唱されており、今後この考え方も浸透していく可能性がある。

